

2018年度 竹村和子フェミニズム基金

事業成果報告書

1. 個人または団体名（団体の場合は代表者名も記入）
日仏女性研究学会 <p style="text-align: right;">（代表者名： 木村信子）</p>
2. 研究または活動のテーマ（課題名）
「日仏比較：性を装う人々 - 現代・歴史・文学・映画に見られるセクシュアルマイノリティ -」（国際女性デー記念・日仏シンポジウムの開催）
3. 助成額
460,000 円
4. 実施期間
2018年 5 月 ～ 2019 年 3 月
5. 実施状況
実施期間中における研究活動および実施内容は以下の通りである。 ①2018年 5月 5日（土） 第1回企画会議 本事業シンポジウムのテーマ・趣旨の検討 ②2018年 6月 23日（土） 第2回企画会議 3セッションの構成と各セッションの検討：6名の発表者および司会者の検討および決定 ③2018年 7月 28日（土） 第3回企画会議 招聘学者ガブリエル・ウーブル氏の発表論文の翻訳と内容分析 ④2018年 8月 31日（金） 第4回企画会議 プログラムの策定・デザイナーの決定 ⑤2018年 9月 22日（土） 第5回企画会議 第二部および第三部発表の検討会 「性の混乱・オペラコミック・宝塚」（吉川佳英子） / 「医学・医療現場・インターセックス」（杉田理恵子） ⑥2018年 11月 10日（土） 第6回企画会議 第二部の発表と検討会 「フランス映画におけるレズビアン表象の歴史-『エマニュエル夫人から『アデル、ブルーは熱い色』まで-』（中山信子） / 「日仏ジェンダー史にみる越境する性-竹次郎こと「たけ」および粉屋のジャンを事例として-」（西尾治子） ⑦2018年 12月 15日（土） 第7回企画会議 第一部および第二部発表の検討会 「19世紀フランスにおける女性と異性装」（新實五歩） / 「舞台：ジェンダーを混乱させる空間-シェークスピア、オペレッタ、宝塚歌劇-」（吉川佳英子） ⑧2019年 2月 9日（土） 第8回企画会議 シンポジウム当日に関する打ち合わせ；パワーポイント映写・同時通訳、司会者との打ち合わせ、その他、注意事項の確認 ⑨2019年 3月 9日（土） 2018年度国際女性デー記念日仏シンポジウム「わたしの性を生きる LGBTI・性的指向&ジェンダー自認 Vivre sa sexualité LGBTI・Orientation sexuelle & Identité de genre」を開催（日仏会館ホール・東京恵比寿/13h-18h）

⑩2019年3月12日(火) 14:30-16:30

ガブリエル・ウーブル共立女子大講演会『『恋人たちだけに』19世紀フランスの高級娼婦ヴァルテス・ドウ・ラ・ビーニュの遺言書』を主催

共立女子大学一ツ橋キャンパス本館 1010 講義室

⑪2019年3月15日(金) 14h30—16h30

ガブリエル・ウーブル奈良女子大講演会「19世紀フランスにおける「トランスジェンダー」を助成 奈良女子大学総合研究棟(文学系S棟) S228 講義室

6. 事業成果と自己評価

事業成果

(1) 2018年国際女性デー記念日仏シンポジウム「わたしの性を生きる LGBTI・性的指向&ジェンダー自認 Vivre sa sexualité LGBTI・Orientation sexuelle&Identité de genre」を2019年3月9日(土)13時~18時、日仏会館一階ホールにて開催した。

<プログラム>

総合司会 木村信子(日仏女性研究学会代表、東洋大学人間科学総合研究所)

開会の辞 坂井セシル(日仏会館・フランス国立日本研究所所長)

趣旨説明 木村信子

第一セッション 司会 高岡尚子(奈良女子大学)

1. 「日仏ジェンダー史にみる越境する性—「竹次郎」こと「たけ」および「粉屋のジャン」を事例として—」 西尾治子(日仏女性研究学会/元・慶應義塾大学)

2. 「19世紀フランスにおける女性と異性装」 新實五穂(お茶の水女子大学)

第二セッション 司会：梅野りんこ(日仏女性研究学会)

1. 「舞台：ジェンダーを混乱させる空間 —シェイクスピア、オペレッタ、宝塚歌劇—」 吉川佳英子(愛知工業大学)

2. 「フランス映画におけるレズビアン表象の歴史 —『エマニュエル夫人』から『アデル、ブルーは熱い色』まで—」 中山信子(早稲田大学演劇博物館)

第三セッション 司会 刀根洋子(和洋女子大学)

1. 「出生時における性別判定の問題—歴史的事例を踏まえて」 杉田理恵子(東京家政大学)

2. 「インターセックス—歴史と新しさ(19-21世紀)の間で」 ガブリエル・ウーブル(パリ・ディドロ大学)

第四セッション 司会 棚沢直子(東洋大学人間科学総合研究所)

質疑応答とパネルディスカッション

閉会の辞 志田道子(日仏女性研究学会)

【主催】日仏女性研究学会

【共催】公益財団法人日仏会館、日仏会館・フランス国立日本研究所、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化科学研究センター

【後援】在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

【助成】 竹村和子フェミニズム基金

【使用言語】 日本語とフランス語、同時通訳あり

<https://blog.goo.ne.jp/csophie2005/e/ce74a0d18ebde9a38f5d4f4b1b3746e6?fm=rss>

<https://www.mfjtokyo.or.jp/events/symposium/20190309.html>

(2) ガブリエル・ウーブル共立女子大講演会

『恋人たちだけに』19世紀フランスの高級娼婦ヴァルテス・ドウ・ラ・ビーニュの遺言書(2019年3月12日・共立女子大学)を開催した。

(3) ガブリエル・ウーブル奈良女子大講演会

「19世紀フランスにおける『トランスジェンダー』」(2019年3月15日。奈良女子大学)を助成した。

性には生物学的(身体的)性 sex、社会的・文化的性 gender、性的指向 sexual orientation、性自認 gender identity が存在する。性は、女/男という二項対立の枠組みに収まるものではなく、人間の数だけ存在していることは、LGBTI や SOGI の問題が取り上げられるようになった今日、ジェンダーやセクシュアリティについて議論するとき、すでに当たり前のこととなっている概念である。ところが、現実社会や芸術・文学・科学・スポーツ、メディアなど、あらゆる分野でほとんどの場合、私たちは、男・女という二つの性に区分され、そこから物事が展開する現象を日常的に目にしている。このように、男・女の二項対立意識が社会的・文化的に人々の心性に深く刻印されている現在、貴基金「竹村和子フェミニズム基金」の貴重なご支援と援助のお陰で、国際女性デー記念日仏シンポジウムを開催し、歴史(異性装者)芸術(映画、演劇)医学(インターセックス)の側面からこのテーマについて検討できたことは、新しい時代にふさわしいジェンダーの考え方を世間に広く発信できたという意味で、多大な意義があったと思われる。

すでに準備段階の早い時期にマスコミが宣伝してくれたこと(朝日新聞 2018年12月15日夕刊)、また共催機関の日仏会館および諸大学、会員のブログやFBなどSNSを通じた宣伝効果もあったと推測されるが、110名という多くの集客数を獲得することができた。さらに本会にとって珍しいことに男性と思われる参加者も多く、LGBTに悩む若者の参加もあった。テーブル・ロンドや質疑応答の効果的な方法に改善すべき点があったものの、総体的に非常に反響が大きく、シンポジウムの続編として本会が企画主催したガブリエル・ウーブル共立女子大講演会(ゾラの『ナナ』やマネのモデルとなったレズビアンの高級娼婦ド・ラ・ビーニュの遺言状について)および同氏の奈良女子大講演会(19世紀フランスにおける「トランスジェンダー」)も大好評を博し、これらのイベント直後から、取り上げられたテーマに強い関心を示す若いジェネレーションが現れ、本会「日仏女性研究学会」に続々と入会してくれたことは予期せぬ驚きであり、本事業の最も大きな成果として評価できるだろう。

なお、シンポジウムおよび二つの講演会の成果物として、登壇者の各発表のレジュメおよび講演会の報告文が本年6月発行の情報紙「女性情報ファイル」129号に、さらにシンポジウムの各発表が投稿論文として来年刊行の学会誌『女性空間』37号に掲載されることになっている。

少子高齢化が進む中、本会も前途多難な会の将来を予測しておりましたが、シンポジウムを開催したお陰で若い学会員が増えたことは、今後の日仏女性研究の推進および日本女性の地位向上を目指す本会の未来にとって明るい展望を示唆する極めて画期的なことです。このように資金面で苦勞することなく、本会が本事業を成功裡に完遂できたのは、ひとえに竹村和子先生の基金をご採択いただきご支援を賜ったおかげに他なりません。衷心より感謝申し上げます。

【成果物一覧】

I. シンポジウム

- 2018年国際女性デー記念日仏シンポジウム「わたしの性を生きる LGBTI・性的指向&性的自認 Vivre sa sexualité LGBTI・Orientation sexuelle&Identité de genre」の開催：[資料A](#)（フライヤー・プログラム）・[資料B](#)（当日の写真）

II. 講演会

- ガブリエル・ウーブル共立女子大講演会を共催：[資料C](#)（ちらし）
『恋人たちだけに』19世紀フランスの高級娼婦ヴァルテス・ドウ・ラ・ビーニュの遺言書
- ガブリエル・ウーブル奈良女子大講演会：[資料D](#)（ちらし）
「19世紀フランスにおける『トランスジェンダー』」

III. 論文・学会報告

- 論文：西尾治子、「ジョルジュ・サンドと異性装の時代——19世紀フランスの女性異性装者たち——」慶應義塾大学『日吉紀要フランス語フランス文学』68号、pp.1-25, 2019年3月刊行：[資料E](#)（写真）
- 論文：下記6本を『女性空間』37号（日仏女性研究学会学会誌）に掲載（2020年11月刊行予定：申し込み受理済（2019年2月））
 - ①「日仏ジェンダー史にみる越境する性—「竹次郎」こと「たけ」および「粉屋のジャン」を事例として—」（西尾治子）
 - ②「19世紀フランスにおける女性と異性装」（新實五穂）
 - ③「舞台：ジェンダーを混乱させる空間 —シェイクスピア、オペレッタ、宝塚歌劇—」（吉川佳英子）
 - ④「フランス映画におけるレズビアン表象の歴史 —『エマニュエル夫人』から『アデル、ブルーは熱い色』まで—」中山信子
 - ⑤「出生時における性別判定の問題—歴史的事例を踏まえて」（杉田理恵子）
 - ⑥「インターセックス—歴史と新しさ（19-21世紀）の間で」（ガブリエル・ウーブル）

II. 学会報告（シンポジウム報告）

A. シンポジウムの登壇者6名の発表のレジュメ：日仏女性研究学会「女性情報ファイル」

「日仏ジェンダー史にみる越境する性—「竹次郎」こと「たけ」および「粉屋のジャン」を事例として—」（西尾治子）；「19世紀フランスにおける女性と異性装」（新實五穂）；「舞台：ジェンダ

—を混乱させる空間 —シェイクスピア、オペレッタ、宝塚歌劇—」（吉川佳英子）；「フランス映画におけるレズビアン表象の歴史 —『エマニュエル夫人』から『アデル、ブルーは熱い色』まで—」中山信子；「出生時における性別判定の問題—歴史的事例を踏まえて」（杉田理恵子）；「インターセックス—歴史と新しさ（19-21 世紀）の間で」（岡部杏子）：日仏女性研究学会「女性情報ファイル」129号に掲載 2019年6月刊行

B. ガブリエル・ウーブル奈良女子大学講演会の報告（高岡尚子）：日仏女性研究学会「女性情報ファイル」2019年6月発行：資料F（写真）

C. ガブリエル・ウーブル共立女子大学講演会の報告（西尾治子）：

日仏女性研究学会「女性情報ファイル」2019年6月発行：資料G（写真）